

株式会社三共 TOBILINE 作業手順書

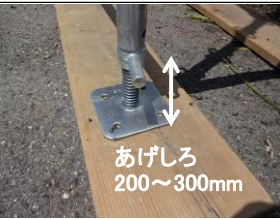
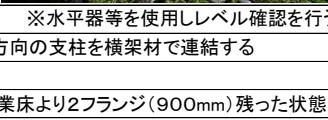
REV.1 2016.7.1

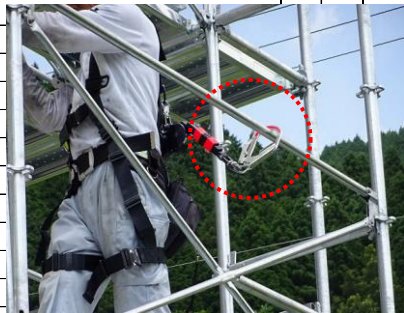
(足場組立編)

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ント (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考			
					可能性	重大性	頻度	評価						
・事 前 準 備(現地)														
1	新規入場者教育の実施	・作業着手前に必ず受講する ・受講時に送り出し教育実施報告書を提出	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の確認及び 現状の現場状況を把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による 現場での混乱、事故					・受講証明等、現場ルールに従う ・作業所のルールや現場の状況を周知する	職長				
2	作業主任者の配置	・足場組立解体作業主任者を選任する ・足場組立解体職務の内容及び氏名を掲示する	・経験技術不足による足場の不備	・経験技術不足による足場の不備	2	3	2	7	・下請け事業主が選任し元請に報告する ・安全掲示板及び作業箇所に表示する	安全衛生 推進者 (所長)				
3	作業前のKYミーティング	・当日の作業員の健康状態をチェックする ・作業で予想される危険についての洗い出し 対策をミーティング後、周知対策を立てる ・作業分担を決め、作業手順を全員で確認する ・製品及び使用工具の機能を点検する	・各自正しい服装、安全装備、保護具の着用を点検する ・全員参加で現地で行なう ・経験を考慮し適正配置をする	・体調不良による事故 ・当日の作業内容不徹底による事故 ・経験技術不足による事故	3	3	2	8	・健康状態により適正配置を行なう ・安全対策事項を確実に実行する ・作業手順を守ること ・各作業員の作業分担を決める ・全員の参加(1人1言 全員参加) ・服装、保護具はきちんとする ・墜落制止用器具は腰の上にきちんとする	担当者 職長 作業員				
4	現場確認後トラック搬入	・軟弱地盤、勾配、段差の有無 ・配管、柵の有無	・事前に地盤、段差、配管等の確認	・トラックの傾き及び製品の荷崩れ	2	3	2	7	・事前に地盤、段差、配管等の確認					
5	立入禁止措置	・カラーコーン等で作業範囲内に第三者が入り 込まないように立入禁止処置をする	・朝礼時に立入禁止区域をアナウンスする  	・第三者災害 ・車両等への接触事故  タイヤに輪留め設置	3	4	3	10	・必要に応じてコーンパー(トラローブ)を使用する ・立入禁止の標示を適所に掲示する ・必要に応じてガードマンを配置し、通行人、通行車両を誘導する ・必要に応じて笛、マイク等を携帯し適切な指示を行ない監視する	職長				
6	製品の荷ほどき	・結束帯または、番線を切断し、製品をほどく	・周囲の確認 ・大丈夫だろうの誤った判断をしない(製品の飛散)	・結束帯または、番線を切断する前に傾斜等を確認する ・結束帯・番線等を踏みケガをする	3	2	2	7	・決して「大丈夫だろう」の判断をしない(製品の飛散) ・結束帯等をその都度片付け、1箇所に集める	職長 作業員				
7	製品搬入 ※ユニック車	・足場材を運搬車から降ろす	・有資格者の配置(玉掛け、ユニック使用時) ・資格、免許証を携帯する	・トラックからの資材の降ろし時に転倒・挟まれ・荷物の 落下等が発生し重大災害・死亡災害を起こす	2	4	2	8	・有資格者の配置(玉掛け、小型クレーン) ・二人作業の徹底を行なう(玉掛け、ユニック使用時) ・積荷状態の確認を行ない、危険箇所を事前に把握する	職長 作業員				
8	製品の運搬 (間配り)	・足場製品の間配り(手運び) ・支柱、手摺、踏板、TL先行手摺等の製品を必要な場 所に必要な数量を配置する	・製品を一度に大量に持たない ・周囲の安全確認 ・TL先行手摺 ・取り扱いに注意 	・製品搬入時の手足の挟み込みや踏み ・長尺製品運搬時に他者に接触する ・足の上に製品を落とす	2	3	1	6	・無理な製品搬入を禁止し、余裕を持った量の運搬を行なう ・周りの作業員からの声掛けの徹底を行い、第三者災害をなくす ・周囲の確認を行なう ・製品を乱雑におかない	職長 作業員				
可能性の定義		5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)	重大性の定義	5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)	頻度の定義	5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)	リスクの評価					＜評価点 12以上＞(最も重大災害が起こり易い) ＜評価点 7～11＞(重大災害につながる可能性がある) ＜評価点 3～6＞(事故の確率は低いが気を抜けない)		

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
		1 層目組立									
1	1 層目 (根がらみ) ※根回し ※地組み	・足場設置部の地盤を確認	・地盤を確認する(地盤沈下)	・軟弱地盤により、地盤沈下による傾き					・軟弱地では杉板、敷角を使用し地盤沈下を防止する	職長 作業員	
		・施工図より割り付け、躯体離れを確認する	・図面を確認し位置を決める						・施工図通り実施し、変更が必要な場合は、元請担当者と協議のもと承認を得る		
		・立て込み位置を決める	・図面を確認し位置を決める								
		・敷板及び杉板を所定の位置に配置する	・地盤を水平にする ・敷板の設置面は地面との隙間を無にする	・ジャッキが外れ、足場が不安定になり倒壊を誘発する ・傾斜があることによりジャッキが不安定になる					・地盤沈下の恐れのない場合は専用敷板でも構わない ・傾斜を事前に確認し傾斜がある場合はキャンバーを使用し敷板を水平にする		
		・ジャッキベースを配置する									
											
		・ジャッキ高さを設定する (ジャッキのあげしろ)	・200〜300mm以内に設定する	・敷板からジャッキが外れる ・足場の倒壊					・300mm以上の時は単管補強をする		
		・桁行、梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱を差し込み根がらみ手摺で連結する	・クサビを確実に打ち込む	・ハンマーで手足を打つ					・根がらみ手摺の打ち込み確認 ・打ち込み不足が無いかを再確認する		
					2	2	2	6			
		・桁行方向のフランジに根がらみ手摺を打ち込み連結する	・TL根がらみ支柱を使用し出来るだけ低い位置に根がらみ手摺を取付ける	・水平、垂直の不揃いによる応力バランスの崩れ					・正確にレベルを出す		
		・レベル調整と、躯体離れ、通りの確認をする ・梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱を差し込み根がらみ手摺で連結する		・ハンマーで手を打つ					・根がらみ設置の際の手摺を確実に打ち込む ・手元を確認し確実に打ち込む		
									・釘打ちによる滑動防止を確実にこなう		
		・躯体離れを確認し2箇所以上釘でジャッキを固定する	・滑動防止								
			※水平器等を使用しレベル確認を行う								
		・TL根がらみ支柱に支柱を立てる ※支柱の組み合わせ 後踏み支柱は900支柱か、2700支柱 前踏み支柱は900〜3600支柱	・桁行方向、梁間方向の支柱を横架材で連結する	・支柱が倒れる					・連続して支柱を立てない		
				※スケールを使用して躯体との離れの確認を行う					※釘留めは2ヶ所以上行う		
		・梁間方向、桁行き方向の支柱を横架材で連結する ※横架材(1500・1200・900・600・400mm)を使用、組幅に合わせた踏板を使用 ※手摺(1500・1200・900・600・400mm)を使用、組幅に合わせた踏板を使用 以上の製品を用途に合わせて使用する		・ハンマーで手を打つ					・手元を確認し確実に打ち込む		
									足場側(踏板)から見た写真		
			※支柱の組み合わせを考慮して(2フランジ残す)施工する	※1層目の踏板を取り付けるための横架材を設置する					足場の外側から見た写真		
									横架材を支柱に設置する時は、上記写真の赤丸印に注意し設置すること		
可能性の定義			重大性の定義		頻度の定義				リスクの評価		
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる)			5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの)		5 頻繁に (非常によく見かける)				＜評価点 12以上＞(最も重大災害が起こり易い)		
4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い)			4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの)		4 多く (比較的によく見かける)				＜評価点 7〜11＞(重大災害につながる可能性がある)		
3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い)			3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者)		3 時々 (時々見かける)				＜評価点 3〜6＞(事故の確率は低いが見えかけない)		
2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない)			2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの)		2 まれに (あまり見かけない)						
1 ほとんどない(よほどの事が無い限り、事故は発生しない)			1 傷薬程度 (かすり傷程度のもの)		1 極まれに(ほとんど見かけない)						

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ント (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
・事 前 準 備(現地)											
1	新規入場者教育の実施	・作業着手前に必ず受講する ・受講時に送り出し教育実施報告書を提出	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の確認及び 現状の現場状況を把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による 現場での混乱、事故					・受講証明等、現場ルールに従う ・作業所のルールや現場の状況を周知する	職長	
2	作業主任者の配置	・足場組立解体作業主任者を選任する ・足場組立解体職務の内容及び氏名を掲示する	・経験技術不足による足場の不備	・経験技術不足による足場の不備	2	3	2	7	・下請け事業主が選任し元請に報告する ・安全掲示板及び作業箇所に表示する	安全衛生推進者 (所長)	
3	作業前のKYミーティング	・当日の作業員の健康状態をチェックする ・作業で予想される危険についての洗い出し 対策をミーティング後、周知対策を立てる ・作業分担を決め、作業手順を全員で確認する ・製品及び使用工具の機能を点検する	・各自正しい服装、安全装備、保護具の着用を点検する ・全員参加で現地で行なう ・経験を考慮し適正配置をする	・体調不良による事故 ・当日の作業内容不徹底による事故 ・経験技術不足による事故	3	3	2	8	・健康状態により適正配置を行なう ・安全対策事項を確実に実行する ・作業手順を守ること ・各作業員の作業分担を決める ・全員の参加(1人1言 全員参加) ・服装、保護具はきちんとする ・墜落制止用器具は腰の上にきちんとする	担当者 職長 作業員	
4	現場確認後トラック搬入	・軟弱地盤、勾配、段差の有無 ・配管、柵の有無	・事前に地盤、段差、配管等の確認	・トラックの傾き及び製品の荷崩れ	2	3	2	7	・事前に地盤、段差、配管等の確認		
5	立入禁止措置	・カラーコーン等で作業範囲内に第三者が入り 込まないように立入禁止処置をする	・朝礼時に立入禁止区域をアナウンスする 	・第三者災害 ・車両等への接触事故  タイヤに輪留め設置	3	4	3	10	・必要に応じてコーンバー(トラロープ)を使用する ・立入禁止の標示を適所に掲示する ・必要に応じてガードマンを配置し、通行人、通行車両を誘導する ・必要に応じて笛、マイク等を携帯し適切な指示を行ない監視する	職長	
6	製品の荷ほどき	・結束帯または、番線を切断し、製品をほどく	・周囲の確認 ・大丈夫だろうの誤った判断をしない(製品の飛散)	・結束帯または、番線を切断する前に傾斜等を確認する ・結束帯・番線等を踏みケガをする	3	2	2	7	・決して「大丈夫だろう」の判断をしない(製品の飛散) ・結束帯等をその都度片付け、1箇所に集める	職長 作業員	
7	製品搬入 ※ユニック車	・足場材を運搬車から降ろす	・有資格者の配置(玉掛け、ユニック使用時) ・資格、免許証を携帯する	・トラックからの資材の降ろし時に転倒・挟まれ・荷物の 落下等が発生し重大災害・死亡災害を起こす	2	4	2	8	・有資格者の配置(玉掛け、小型クレーン) ・二人作業の徹底を行なう(玉掛け、ユニック使用時) ・積荷状態の確認を行ない、危険箇所を事前に把握する	職長 作業員	
8	製品の運搬 (間配り)	・足場製品の間配り(手運び) ・支柱、手摺、踏板、TL先行手摺等の製品を必要な 場所へ 必要な数量を配置する	・製品を一度に大量に持たない ・周囲の安全確認 ・TL先行手摺 取り扱いに注意 	・製品搬入時の手足の挟み込みや躓き ・長尺製品運搬時に他者に接触する ・足の上に製品を落とす	2	3	1	6	・無理な製品搬入を禁止し、余裕を持った量の運搬を行なう ・周りの作業員からの声掛けの徹底を行い、第三者災害をなくす ・周囲の確認を行なう ・製品を乱雑におかない	職長 作業員	
可能性の定義 5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)		重大性の定義 5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものでor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもので、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		頻度の定義 5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好く見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)				リスクの評価 ＜評価点 12以上＞(最も重大災害が起こり易い) ＜評価点 7～11＞(重大災害につながる可能性がある) ＜評価点 3～6＞(事故の確率は低いが見え抜けない)			

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ント (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
	1 層目組立										
1	1 層目（根がらみ） ※根回し ※地組み	・足場設置部の地盤を確認	・地盤を確認する(地盤沈下)	・軟弱地盤により、地盤沈下による傾き					・軟弱地では杉板、敷角を使用し地盤沈下を防止する	職長 作業員	
		・施工図より割り付け、躯体離れを確認する	・図面を確認し位置を決める						・施工図通り実施し、変更が必要な場合は、元請担当者と協議のもと承認を得る		
		・立て込み位置を決める	・図面を確認し位置を決める								
		・敷板及び杉板を所定の位置に配置する	・地盤を水平にする ・敷板の設置面は地面との隙間を無いにする	・ジャッキが外れ、足場が不安定になり倒壊を誘発する ・傾斜があることによりジャッキが不安定になる					・地盤沈下の恐れのない場合は専用敷板でも構わない ・傾斜を事前に確認し傾斜がある場合はキャンバーを使用し敷板を水平にする		
											
		・ジャッキベースを配置する									
		・ジャッキ高さを設定する (ジャッキのあげしろ)	・200～300mm以内に設定する	・敷板からジャッキが外れる ・足場の倒壊					・300mm以上の時は単管補強をする		
											
		・桁行、梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱を差し込み根がらみ手摺で連結する	・クサビを確実に打ち込む	・ハンマーで手足を打つ	2	2	2	6	・根がらみ手摺の打ち込み確認 ・打ち込み不足が無いかを再確認する		
		・桁行方向のフランジに根がらみ手摺を打ち込み連結する	・TL根がらみ支柱を使用し出来るだけ低い位置に根がらみ手摺を取付ける	・水平、垂直の不揃いによる応力バランスの崩れ					・正確にレベルを出す		
		・レベル調整と、躯体離れ、通りの確認をする ・梁間方向のジャッキにTL根がらみ支柱を差し込み根がらみ手摺で連結する		・ハンマーで手を打つ 					・根がらみ設置の際の手摺を確実に打ち込む ・手元を確認し確実に打ち込む		
		・躯体離れを確認し2箇所以上釘でジャッキを固定する	・滑動防止						・釘打ちによる滑動防止を確実にこなう		
											
			※水平器等を使用しレベル確認を行う	※スケールを使用して躯体との離れの確認を行う							
		・TL根がらみ支柱に支柱を立てる ※支柱の組み合わせ 後踏み支柱は900支柱か、2700支柱 前踏み支柱は900～3600支柱	・桁行方向、梁間方向の支柱を横架材で連結する ・後踏み支柱は作業床より2フランジ(900mm)残った状態にする	・支柱が倒れる					・連続して支柱を立てない		
									※釘留めは2ヶ所以上行う		
		・梁間方向、桁行き方向の支柱を横架材で連結する ※横架材(1500・1200・900・600・400mm)を使用、組幅に合わせた踏板を使用 ※手摺(1500・1200・900・600・400mm)を使用、組幅に合わせた踏板を使用 以上の製品を用途に合わせて使用する		・ハンマーで手を打つ 					・手元を確認し確実に打ち込む		
									 		
			※支柱の組み合わせを考慮して(2フランジ残す)施工する	※1層目の踏板を取り付けるための横架材を設置する					横架材を支柱に設置する時は、上記写真の赤丸印に注意し設置すること		
可能性の定義			重大性の定義		頻度の定義				リスクの評価		
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)			5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)				リスクの評価 <評価点 12以上> (最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11> (重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6> (事故の確率は低いが見え抜けない)		

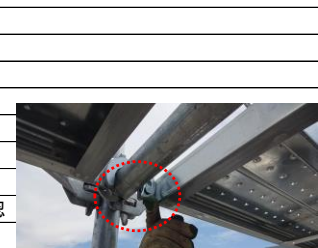
NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ント (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考		
					可能性	重大性	頻度	評価					
	最上段組立 ・最上段組立	・最上段への移動	・昇降階段を使用する	・足場をよじ登り転落する		3	4	3	10	・昇降は必ず昇降階段を使用する	職長 作業員		
		・製品の荷上げ	・声の掛け合い	・荷上げ中の製品落下						・声の掛け合い「取った」「ハイ」による受け取り確認をする			
													
		・横架材取付け ※横架材以外に手摺1500・1200・900・600・400	・手元を確認ししっかり叩き込む	・製品の落下 ・工具の落下 ・取り付け中の墜落		3	5	3	12	・手元を確認し確実に打ち込む ・打込み不足が無いか再確認する			
		・支柱最上部に水平材を取付ける	・墜落制止用具の使用 ・しっかり打込む						・墜落制止用具を使用する ・慎重に取付ける				
		・壁つなぎを取付ける ※鋼材壁つなぎを水平2スパン、垂直2層毎に 取付ける	・躯体離れを均一に取付ける ・出来るだけ直角になるように 取付ける	・ハンマーで手を打つ ・工具を落とす ・足場の揺れによる落下		2	3	2	7	・手元を確認して打込む ・紐付き工具の使用 ・確実に固定しナットの締めすぎによる強度不足の場合は交換する ・必ず支柱に固定する(手摺に取付けない)			
				※支柱の最上部に水平材を設置									
		・火打ちの取付け	・角度45度に近い状態で取付ける ・水平に近い状態で取付ける	・製品の落下 ・工具の落下 ・取付け中の墜落		2	3	2	7	・慎重に取付ける			
						2	3	2	7	・ひも付き工具を使用する			
						2	5	2	9	・墜落制止用具を使用する			
	躯体間渡り	・屋上への躯体間 渡り取付け	・墜落制止用具を使用する	・工具の落下 ・取付け中の墜転落 ・荷上げ中の製品の取りこぼし		2	3	2	7	・ひも付き工具を使用する			
						2	5	2	9	・墜落制止用具を使用する			
						2	5	2	9	・声の掛け合い「取った」「はい」による手渡しの確認をする			
			火打ちは極力支柱から取る										
	・足場の補強	・クレーン、ロングスパンエレベーター、朝顔 生コン圧送管の設置箇所等	・基本に基づいた壁つなぎ補強をする	・工具の落下 ・取付中の製品の落下 ・取付中の墜転落		2	2	2	6	・ひも付き工具を使用する			
						2	3	2	7	・慎重に取付ける			
						2	5	2	9	・墜落制止用具を使用する			
	・飛来落下養生	・外周面垂直養生ネット	・墜落制止用具使用	・製品の落下 ・取付中の墜落		2	3	2	7	・墜落制止用具を使用し慎重に			
						2	5	2	9	・下部の立入禁止を行なう			
	・標識類の取り付け	・最大積載荷重、建地間の積載荷重 ・足場の組立て等作業主任者	・周知できる箇所に取付ける										
			シート紐は全結束とする										
	・余剰製品の片付け	・残製品、使用工具の片付け	・指定箇所に整理しておく	・つまづき、転倒、転落		2	5	2	9	・安全通路を確保する			
										※足場上では紐付き工具を必ず使用			
	・作業終了後の 各種点検	・足場の各所を点検する ①脚部の滑動の有無 ②壁つなぎ等の補強 ③養生材の確認 ④開口部の点検 等	・危険ポイントの洗い出し ・不具合がある場合は報告し、使用禁止処置を取る ・速やかに是正を行い報告し使用禁止を解除する	・点検中の墜転落、転倒		2	4	2	8	・慌てない			
	・清掃	・周辺の清掃	・たけぼうし、ホース等の清掃道具を準備している	・つまづき、転倒		2	2	1	5	・周囲、足元の確認	▼		
	・作業終了報告	・現場監督に作業終了を報告									職長		
可能性の定義			重大性の定義		頻度の定義				リスクの評価				
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)			5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)				リスクの評価 ＜評価点 12以上＞(最も重大災害が起こり易い) ＜評価点 7～11＞(重大災害につながる可能性がある) ＜評価点 3～6＞(事故の確率は低いが見え抜けない)				

(足場解体編)

〔工事種目〕 足場解体		〔施工体制〕 (1次) (2次)		〔工 事 名〕		出席者					
				〔工事期間〕 或〇〇年〇〇月〇〇日～平成〇〇年〇〇月〇〇日			打合日				
NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
	共通事項										
	・事前準備										
1	現場入場に必要な書類の提出	・施工体制台帳 ・作業員名簿 ・緊急連絡体制 ・再請負通知書 ・労務安全書類 ・工事用車両届け(トラック) ・持ち込み機械(電動工具・溶接機)使用届け	・年一回の健康診断・有資格者の確認 ・現場毎の緊急体制を確立すること(現場ルールに従う)	・作業体制の曖昧化による指揮命令系統の混乱 ・健康診断・無資格作業・年齢制限作業等への対応 ・事故発生時の対応の遅れによる災害の拡大	3	2	6	11	・着工前に届出が完了しているか確認する ・各作業に必要な資格者の配置と資格者証の確認 ・現場に掲示する等、現場ルールに従う	担当者	
2	送り出し教育の実施	・事業者又は安全担当責任者が、作業員を送り出す日の一週間前より実施する	・担当者が現場ルール、作業内容、安全事項等を事前に把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による現場での混乱、事故	2	4	2	8	・新規入場予定の職長を含む全ての作業員を対象とし実施する ・2次の会社作業員にも同様の「送り出し教育」を実施する ・「送り出し教育」実施の報告書を参加者自筆署名し提出する	担当者	
3	作業手順書作成	・作業内容毎に、危険作業を洗い出し、災害予測をリスクアセスメントを取り入れた方法として作成する。 ・各作業責任者選任	・危険作業を洗い出し、対策することによる災害の減少と事故0を図る	・作業内容、手順が決まっていない事による危険作業の見落とし及び重大災害の発生					・決められた作業手順の遵守と手順変更の禁止、但し、変更は協議し了承が得られれば可能。変更は、作業員全員に周知徹底する ・決められた安全対策を守らせる ・作業責任者の明確化と資格者の適正配置	安全衛生推進者 (所長) 担当者	
	・事前準備(現地)										
1	新規入場者教育の実施	・作業着手前に必ず受講する。 ・受講時に送り出し教育実施報告書を提出	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の確認及び現状の現場状況を把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による現場での混乱、事故	2	4	2	8	・受講証明等、現場ルールに従う ・作業所のルールや現場の状況を周知する	職長	
2	周知会	・作業手順の確認	・周知徹底	・墜転落 ・製品の落下					・朝礼後、解体手順を全員に周知させる	職長	
3	作業主任者の配置	・足場組立解体作業主任者を選任する ・足場組立解体職務の内容及び氏名を掲示する	・経験技術不足による足場の不備	・経験技術不足による足場の不備	2	3	2	7	・下請け事業主が選任し元請に報告する ・安全掲示板及び作業箇所に表示する	安全衛生推進者 (所長) 担当者	
4	作業前のKYミーティング	・当日の作業員の健康状態をチェックする ・作業で予想される危険についての洗い出し 対策をミーティング後、周知対策を立てる ・作業分担を決め、作業手順を全員で確認する	・各自正しい服装、安全装備、保護具の着用を点検する ・全員参加で現地で行なう ・危険箇所の洗い出し ・経験を考慮し適正配置をする	・体調不良による事故 ・当日の作業内容不徹底による事故 ・経験技術不足による事故	3	3	2	8	・健康状態により適正配置を行なう ・安全対策事項を確実に実行する ・作業手順を守ること ・各作業員の作業分担を決める ・全員の参加(1人1言 全員参加) ・服装、保護具はきちんとする ・墜落制止用器具は腰の上にきちんとする	職長 作業員	
5	使用工具類の点検	・使用工具の機能を点検	・紐、ロープの磨耗確認	・工具類の落下	2	2	2	6	・紐付き工具を使用する		
6	現場確認後トラック搬入	・軟弱地盤、勾配、段差の有無 ・配管、柵の有無	・事前に地盤、段差、配管等の確認	・トラックの傾き	2	3	2	7	・事前に地盤、段差、配管等の確認		
7	立入禁止措置	・カラーコーン等で作業範囲内に第三者が入り込まないように立入禁止処置をする	・朝礼時に立入禁止区域をアナウンスする	・第三者災害 ・車両等への接触事故	3	4	3	10	・必要に応じてコーンバー(トラロープ)を使用する ・立入禁止の標示を適所に掲示する ・必要に応じてガードマンを配置し、通行人、通行車両を誘導する ・必要に応じて笛、マイク等を携帯し所持をはっきりさせ監視する	職長	
											
8	足場の解体前点検			・足場の倒壊、崩壊	2	4	2	8	・壁つなぎ、TL先行手摺、手摺、踏板の確認		
9	足場上残材等の撤去 (標識類の撤去)			・残材の落下 ・移動中の転倒	2	4	2	8	・作業床上の清掃実施と確認する ・足元、周囲を確認する	作業員	
可能性の定義			重大性の定義		頻度の定義				リスクの評価		
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)			5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに (ほとんど見かけない)				リスクの評価 <評価点 12以上> (最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11> (重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6> (事故の確率は低い気が抜けない)		

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考		
					可能性	重大性	頻度	評価					
		・支柱を取外す 	・立てかけない 	・根がらみ手摺が外れ支柱が倒れる 	2	3	2	7	・根がらみ手摺の打ち込み具合を確認する 	職長 作業員			
			※解体した製品は出来るだけ寝かせておく	※根がらみを外す時は支柱を倒さないため2名で作業する					※解体する前に、根がらみの打込みを再度、確認して作業すること				
		・根がらみ手摺を取外す 	・出来るだけ同一箇所に集積する	・ハンマーで手を打つ 	2	2	2	6	・根がらみ手摺の中央部分を掴みハンマーで叩く				
		・ジャッキを取外す	・出来るだけ同一箇所に集積する	・ジャッキに躓き転倒する	1	1	1	3	・整理整頓				
		・敷板(クサビ製品)及び杉板を取外す	・釘を抜いておく	・釘を踏み抜く	2	2	1	5	・整理整頓(取った釘は集約しておく)				
	解体材の整理	・場所により床の養生 ・製品ごとに整理 ※車両に直接取り込みすることもあり		・床の破損 ・手指の挟まれ ・集積部材の崩壊 ・水平運搬中の転倒 					・集積材仮置き部分は、シート養生し、コンパネを敷き、台木を置く ・手袋をして慎重に作業する ・水平を確認しながら、必要に応じ番線で結束する ・足元に部材を放置せず整理整頓し、余裕を持った重量で運搬する				
	製品搬出	・搬出の手順・経路・配車について検討する		・路上駐車して近隣から苦情が出る ・第三者にケガをさせる。	2	2	2	6	・事前に周到な検討をして、決められた事を守る ・立入禁止囲いを隙間が生じないようにする ・必要に応じガードマンを配置する				
		・車両への積込(トラック)	・製品を大量に一度に持たない ・周囲の安全確認 ・小物類(クランプ等)は布袋に入れて運搬する	・製品持上げ時に手を挟む ・製品持上げ時に手足に落とす ・長尺製品運搬時に他者に接触する	3	3	2	8	・余裕を持った量の運搬を行なう ・バランスの良い持ち方をする ・周囲の確認を行ない、安全通路を確保する				
	片付け	・残材の整理	・指定場所へ片付ける	・躓き転倒	2	2	2	6	・周囲の確認を行ない、安全通路を確保する				
		・工具類の片付け	・工具箱に収納する										
		・解体作業周辺の清掃	・簾、ホース等の清掃用具は車両に積んでおく										
		・作業終了の報告	・職長は元請担当者に報告する							職長			
可能性の定義		5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)	重大性の定義	5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷薬程度 (かすり傷程度のもの)	頻度の定義				5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的によく見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)	リスクの評価			<評価点 12以上>(最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11>(重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6>(事故の確率は低い)が気を抜けない)

〔工事種目〕 足場解体		〔施工体制〕 (1次) (2次)		〔工 事 名〕 〔工事期間〕 或〇〇年〇〇月〇〇日～平成〇〇年〇〇月〇〇日 打合日				出席者				
NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考	
					可能性	重大性	頻度	評価				
	共通事項											
	・事前準備											
1	現場入場に必要な書類の提出	・施工体制台帳 ・作業員名簿 ・緊急連絡体制 ・再請負通知書 ・労務安全書類 ・工事用車両届け(トラック) ・持ち込み機械(電動工具・溶接機)使用届け	・年一回の健康診断・有資格者の確認 ・現場毎の緊急体制を確立すること(現場ルールに従う)	・作業体制の曖昧化による指揮命令系統の混乱 ・健康診断・無資格作業・年齢制限作業等への対応 ・事故発生時の対応の遅れによる災害の拡大	3	2	6	11	・着工前に届出が完了しているか確認する ・各作業に必要な資格者の配置と資格者証の確認 ・現場に掲示する等、現場ルールに従う	担当者		
2	送り出し教育の実施	・事業者又は安全担当責任者が、作業員を送り出す日の一週間前より実施する	・担当者が現場ルール、作業内容、安全事項等を事前に把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による現場での混乱、事故					・新規入場予定の職長を含む全ての作業員を対象とし実施する ・2次の会社作業員にも同様の「送り出し教育」を実施する ・「送り出し教育」実施の報告書を参加者自筆署名し提出する	担当者		
3	作業手順書作成	・作業内容毎に、危険作業を洗い出し、災害予測をリスクアセスメントを取り入れた方法として作成する。 ・各作業責任者選任	・危険作業を洗い出し、対策することによる災害の減少と事故0を図る	・作業内容、手順が決まっていない事による危険作業の見落とし及び重大災害の発生					・決められた作業手順の遵守と手順変更の禁止、但し、変更は協議し了承が得られれば可能。変更は、作業員全員に周知徹底する ・決められた安全対策を守らせる ・作業責任者の明確化と資格者の適正配置	安全衛生推進者 (所長) 担当者		
	・事前準備(現地)											
1	新規入場者教育の実施	・作業着手前に必ず受講する。 ・受講時に送り出し教育実施報告書を提出	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の確認及び現状の現場状況を把握する	・現場のルール、作業内容、安全重点事項等の未周知による現場での混乱、事故	2	4	2	8	・受講証明等、現場ルールに従う ・作業所のルールや現場の状況を周知する	職長		
2	周知会	・作業手順の確認	・周知徹底	・墜転落 ・製品の落下					・朝礼後、解体手順を全員に周知させる	職長		
3	作業主任者の配置	・足場組立解体作業主任者を選任する ・足場組立解体職務の内容及び氏名を掲示する	・経験技術不足による足場の不備	・経験技術不足による足場の不備	2	3	2	7	・下請け事業主が選任し元請に報告する ・安全掲示板及び作業箇所に表示する	安全衛生推進者 (所長) 担当者		
4	作業前のKYミーティング	・当日の作業員の健康状態をチェックする ・作業で予想される危険についての洗い出し 対策をミーティング後、周知対策を立てる ・作業分担を決め、作業手順を全員で確認する	・各自正しい服装、安全装備、保護具の着用を点検する ・全員参加で現場で行なう ・危険箇所の洗い出し ・経験を考慮し適正配置をする	・体調不良による事故 ・当日の作業内容不徹底による事故 ・経験技術不足による事故	3	3	2	8	・健康状態により適正配置を行なう ・安全対策事項を確実に実行する ・作業手順を守ること ・各作業員の作業分担を決める ・全員の参加(1人1言 全員参加) ・服装、保護具はきちんとする ・墜落制止用器具は腰の上にきちんとする	職長 作業員		
5	使用工具類の点検	・使用工具の機能を点検	・紐、ロープの磨耗確認	・工具類の落下	2	2	2	6	・紐付き工具を使用する			
6	現場確認後トラック搬入	・軟弱地盤、勾配、段差の有無 ・配管、柵の有無	・事前に地盤、段差、配管等の確認	・トラックの傾き	2	3	2	7	・事前に地盤、段差、配管等の確認			
7	立入禁止措置	・カラーコーン等で作業範囲内に第三者が入り込まないように立入禁止処置をする	・朝礼時に立入禁止区域をアナウンスする	・第三者災害 ・車両等への接触事故	3	4	3	10	・必要に応じてコーンバー(トラロープ)を使用する ・立入禁止の標示を適所に掲示する ・必要に応じてガードマンを配置し、通行人、通行車両を誘導する ・必要に応じて笛、マイク等を携帯し所持をはっきりさせ監視する	職長		
												
												
8	足場の解体前点検			・足場の倒壊、崩壊	2	4	2	8	・壁つなぎ、TL先行手摺、手摺、踏板の確認			
9	足場上残材等の撤去 (標識類の撤去)			・残材の落下 ・移動中の転倒	2	4	2	8	・作業床上の清掃実施と確認する ・足元、周囲を確認する	作業員		
可能性の定義		重大性の定義		頻度の定義		リスクの評価						
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)		5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)		リスクの評価 <評価点 12以上>(最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11>(重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6>(事故の確率は低い気が抜けない)						

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
	解体作業									職長 作業員	
	・飛来落下養生シート 取外し	2ー1飛来落下養生の取外し 2ー2外部垂直養生撤去 2ー3層間養生撤去 ※手下ろし時は面毎にシートを取外す	・現場に応じて、各面各層毎に取外す 	・墜落、製品・工具の落下 ・製品の落下	3	4	2	9	・墜落制止用器具使用 ・紐付き工具の使用		
	足場繋ぎ・補強材等の 取外し	3ー1足場繋ぎ取外し ※解体層毎に取外す 3ー2アンカー跡の補修(シーリング、塗装) 3ー3補強材の取外し 3ー4火打ち補強材の取外し 解体層ごとに取外し	・墜落制止用器具を使用 ・アンカー跡の補修 ※養生シートの取外し 	・足場の揺れによる墜転落 ・製品、工具の落下 ・仕上げ不良手直し ・墜転落 ・製品、工具の落下	3	4	2	9	・解体層ごとに取外し、先行して取外しをしない ・墜落制止用器具使用、紐付工具の使用 ・シーリング打替え ・小物入れ布袋を準備し取外し都度袋に入れる ・慎重な取外し、安定した仮置き		
	最上層解体	1ー1水平手摺(最上段)の取り外し	・製品の集積 ・紐付き工具の使用 	・墜転落 ・製品、工具の落下	2	4	2	8	・下部の立入禁止処置をする ・墜落制止用器具を使用する ・紐付き工具を使用する ・荷崩れしないように集積する		※足場上では紐付き工具を必ず使用
		1ー2頭つなぎ(横架材)の取外し	・製品の集積 ・紐付き工具の使用 	・製品の落下 ・工具の落下	2	4	2	8	・紐付き工具を使用する ・荷崩れしないように集積する		
	手下ろし編	1ー3解体製品の荷下ろし	・墜落制止用器具の使用 ・声の掛け合い ・紐付き工具の使用 ※最上部水平材 取外し	・荷下ろし時の墜落 ・製品の落下 ・工具の落下	3	4	2	9	・墜落制止用器具を使用する ・各層に人員を配置する ・紐付工具を使用する ・声の掛け合い「取った」「ハイ」による手渡しの確認をする		
	移動	下段に移動	・昇降階段を使用する	・墜転落	2	5	2	9	・支柱を使用しての下段への移動をしない ・昇降階段を使用する		
	中間層～第2層解体	・踏板の取外し 	・フックの可動状態を確認 	・手を挟む ・風でバランスを崩し墜落する	2	4	2	8	・手元を確認し踏板を取外す ・必要以上に高く持たせないで風の抵抗をなくす ・必要以上に高く持たせず風の抵抗を少なくする ・風の抵抗を最小限に抑えた取外しをする		※必ず手渡し作業とする
	・TL先行手摺の取外し (据置型先行手摺)	・TL先行手摺の取外し ※躯体に背を向けた状態で右の支柱を基点に 取外す ①右側の支柱緊結部のクサビを取外す ②左側の支柱緊結部のクサビを取外す ③右支柱の固定クサビを取外す ④左側支柱の回転クサビを取外す ※左右の順番についてはどちらでも構わない ※前踏み、後踏みの順番で行うと作業がしやすい	・取外し順序を厳守する 	・製品で指を挟む ・ハンマーで手を打つ 	2	2	2	6	・製品を乱雑に取り扱わない(作業手順を守る) ・斜材の中央部分を持ちクサビを打ち抜く		
				※4フランジ目のクサビはハンマーを使用して外す							
可能性の定義		重大性の定義		頻度の定義		リスクの評価					
5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事がない限り、事故は発生しない)		5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの)		5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに(ほとんど見かけない)		<評価点 12以上>(最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11>(重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6>(事故の確率は低いが見えかけない)					

NO	工 程 (作業区分)	作 業 手 順	ポ イ ン ト (詳 細)	予 想 さ れ る 災 害	リスクアセスメント				安 全 対 策	誰が	備 考
					可能性	重大性	頻度	評価			
		・昇降階段の取外し (手摺、中棧手摺含む)	・手元足元の確認 ・合図(掛け声)	・製品集積時に手足を挟む ・ハンマーで手を打つ	2	2	2	6	・集積場所の確保 ・クサビより離れた部分を掴み叩く	職長 作業員	
		・横架材(手摺1500・1200・900・600・400)取外し 	・出来るだけ同一箇所に集積する 	・製品集積時に手足を挟む ・ハンマーで手を打つ 	2	2	2	6	・集積場所の確保 ・横架材の中央部分を掴みハンマーで叩く 		
		※横架材の取外し	※落下しないように仮置きする	※誤ってハンマーで自身の手を叩かないよう、注意する					※ハンマーでクサビを抜いた後は、次は手でクサビを持ち上げると外れる		
		・支柱を取外す 	・立てかけない 	・根がらみ手摺が外れ支柱が倒れる 	2	3	2	7	・根がらみ手摺の打ち込み具合を確認する 		
		※解体した製品は出来るだけ寝かせておく	※根がらみを外す時は支柱を倒さないため2名で作業する	※解体する前に、根がらみの打込みを再度、確認して作業すること							
		・根がらみ手摺を取外す	・出来るだけ同一箇所に集積する	・ハンマーで手を打つ 	2	2	2	6	・根がらみ手摺の中央部分を掴みハンマーで叩く		
		・ジャッキを取外す	・出来るだけ同一箇所に集積する	・ジャッキに踏み転倒する	1	1	1	3	・整理整頓		
		・敷板(クサビ製品)及び杉板を取外す	・釘を抜いておく 	・釘を踏み抜く	2	2	1	5	・整理整頓(取った釘は集約しておく)		
	解体材の整理	・場所により床の養生 ・製品ごとに整理 ※車両に直接取り込みすることもあり		・床の破損 ・手指の挟まれ ・集積部材の崩壊 ・水平運搬中の転倒	2	2	2	6	・集積材仮置き部分は、シート養生し、コンパネを敷き、台木を置く ・手袋をして慎重に作業する ・水平を確認しながら、必要に応じ番線で結束する ・足元に部材を放置せず整理整頓し、余裕を持った重量で運搬する		
	製品搬出	・搬出の手順・経路・配車について検討する		・路上駐車して近隣から苦情が出る ・第三者にケガをさせる。	2	2	2	6	・事前に周知な検討をして、決められた事を守る ・立入禁止囲いを隙間が生じないようにする ・必要に応じガードマンを配置する		
		・車両への積込(トラック)	・製品を大量に一度に持たない ・周囲の安全確認 ・小物類(クランプ等)は布袋に入れて運搬する	・製品持上げ時に手を挟む ・製品持上げ時に手足に落とす ・長尺製品運搬時に他者に接触する	3	3	2	8	・余裕を持った量の運搬を行なう ・バランスの良い持ち方をする ・周囲の確認を行ない、安全通路を確保する		
	片付け	・残材の整理	・指定場所へ片付ける	・踏み転倒	2	2	2	6	・周囲の確認を行ない、安全通路を確保する		
		・工具類の片付け	・道具箱に収納する								
		・解体作業周辺の清掃	・幕、ホース等の清掃用具は車両に積んでおく								
		・作業終了の報告	・職長は元請担当者に報告する							職長	
可能性の定義 5 極めて高い (そのままにしておいたら、必ず事故が起きる) 4 高い (気をつけていても事故が起きる可能性が高い) 3 やや高い (気をつけていないと、事故が起きる可能性が高い) 2 低い (ミス・エラーがない限り、事故は発生しない) 1 ほとんどない(よほどの事が無い限り、事故は発生しない) 重大性の定義 5 死亡・後遺症傷害 (死亡災害や身体の一部に永久損傷を伴うもの) 4 1ヶ月以上の休業 (休業災害1ヶ月以上のものor1度に多数の被災者を伴うもの) 3 1ヶ月未満の休業 (休業災害1ヶ月以上のもの、単独の被災者) 2 4日未満の休業 (休業4日未満災害で通院の必要のあるもの) 1 傷業程度 (かすり傷程度のもの) 頻度の定義 5 頻繁に (非常によく見かける) 4 多く (比較的良好に見かける) 3 時々 (時々見かける) 2 まれに (あまり見かけない) 1 極まれに (ほとんど見かけない) リスクの評価 <評価点 12以上> (最も重大災害が起こり易い) <評価点 7～11> (重大災害につながる可能性がある) <評価点 3～6> (事故の確率は低い気を取らない)											